

Association of Daily Wear of Eyeglasses With Susceptibility to Coronavirus Disease 2019 Infection

Weibiao Zeng, et al.

JAMA Ophthalmol. 2020 Sep 16;e203906.

全文 URL : <https://jamanetwork.com/journals/jamaophthalmology/fullarticle/2770872>

Physical distancing, face masks, and eye protection to prevent person-to-person transmission of SARS-CoV-2 and COVID-19: a systematic review and meta-analysis

Derek K Chu, et al.

Lancet 2020[Epub ahead]

全文 URL : [https://www.thelancet.com/Journals/lancet/article/PIIS0140-6736\(20\)31142-9/fulltext](https://www.thelancet.com/Journals/lancet/article/PIIS0140-6736(20)31142-9/fulltext)

COVID-19 の感染を防ぐための物理的距離、フェイスマスク、およびアイガードの効果

1 つ目は 2020 年 9 月に JAMA Ophthalmol より出版された論文です。中国湖北省で発生した COVID-19 の入院患者で日常的に眼鏡をかけていた（毎日 8 時間以上の装着）のは 276 人中 16 人（5.8%）であり、これは湖北省の近視の有病率 31.5%よりも少ないことから日常的な眼鏡の使用が感染防護に役立った可能性について述べています。この研究の限界としてはサンプルサイズの問題、眼鏡装着の割合は過去の文献に基づいていること、過去の近視の有病率にはわずかながら眼鏡を付けていない者が含まれること、研究参加者（COVID-19 ケース）にはコンタクトレンズの使用者がいなかったことが挙げられています。

2 つ目は 2020 年 6 月にはフィジカル（ソーシャル）ディスタンス、フェイスマスク、アイガードについて、2020 年 5 月までに発表された観察研究を用いたメタアナリシスが Lancet より WHO の fund を用いて出版されています。フィジカルディスタンスは 1m 以上の距離の確保によって 1m 未満と比べると aOR0.18[95%CI 0.09-0.38]・リスク差（RD）は-10.2%[-11.5 to -7.5]であり距離を離すほどにリスク低減が認められています(効果の確からしさは moderate)。フェイスマスクは aOR0.15[0.07 to 0.34]・RD -14.3%[-15.9 to -10.7](確からしさ low)。アイガードは aOR0.22[0.12 to 0.39]・RD -10.6%[-12.5 to -7.7](確からしさ low)といずれも感染リスク低減効果が認められます。

観察研究の効果値を統合しているため解釈に注意が必要ですが、フィジカルディスタンスとマスクについては、メカニズムとしても合理的であり今後介入研究の実施は困難と思われます。アイガードについても同様に本原稿執筆時点で clinical.gov を検索する限りアイガードに関する実施中ないし計画されている試験は見当たりませんでした。よって現時点では SARS-CoV2 の標準感染防護策 3 点に関する best available なエビデンスと言ってよいと思われます。

要約作成者：昭和大学藤が丘病院 内科系診療センター内科(腎臓)/

昭和大学 統括研究推進センター

西脇 宏樹

飯塚病院 腎臓内科/臨床研究支援室

佐々木 彰